

春雷

松下 幹生

夜中の雷鳴 ふと目を覚ます
隣の君は 怯えた顔で
じっと窓辺を 見つめてた
まだ肌寒い 早春の宵
再びの 稲妻に すがり付く女 (ひと)
あああ
あの日の君は もう帰らない

あの日の僕らは 映画を観てた
エンドロールの ごわめきの中
じっとこちらを 見る視線
君も気がつき 怪訝な顔で
あの人は 誰なのと 僕を見つめる
あああ
あの日に僕は 奈落に落ちた

あの日はどしゃ降り 水無月の夜
いつもの悪い 癖が現れ
じっと出来ずに 声掛ける
優柔不断な 僕の悪癖
雷鳴が 響く中 君は出て行く
あああ
あの日失くした 日常の日々